

記事を読んで、問いに答えましょう。

解答例

2022年3月11日朝刊

鉗子で折り鶴 10年で1万羽

体内に挿入したファイバースコープの映像を頼りに、鉗子を用いて患部の切除や縫合を行う内視鏡手術は、持つ、持ち替える、押す、引くなどの基本操作が大半を占める。折り鶴にはそれらの動作が含まれ、技術が身に付く上、スピードや完成度で上達の度合いが分かりやすいという。

静岡病院の橋本医師

練習法を知った2012年当時は、1羽折るのに64分を要し、完成した鶴は「軍にひかれたハトのようだった」。うまく折れなかったことが悔しく、仕事の合間や休日にくつこつと練習を続け、今では2分を切るまでに上達した。自己記録の1分52秒は確認できる範囲で世界最速という。

技術の向上につながれば

操作「自分の指先のように」

静岡市立静岡病院の外科医橋本洋右さん(53)が内視鏡外科手術で用いる鉗子(かんし)を使って制作した折り鶴が10日、1万羽に達した。手術の腕を磨くと始め、10年で大台に乗った。橋本さんは「自分の指先のように(鉗子)動かせるようになった」と長年の鍛錬の成果を強調した。



鉗子を使って折り鶴を作る橋本洋右さん。10年で折った鶴は1万羽にのぼる。10日午前、静岡市立静岡病院



初めて作った折り鶴(右)と1万羽目の鶴(左)

練習法を知った2012年当時は、1羽折るのに64分を要し、完成した鶴は「軍にひかれたハトのようだった」。うまく折れなかったことが悔しく、仕事の合間や休日にくつこつと練習を続け、今では2分を切るまでに上達した。自己記録の1分52秒は確認できる範囲で世界最速という。

橋本さんは「折り鶴作りは手術がうまくなるための手段であり目的ではない」と強調した上で、スキルアップのための一つの方法として若手にもチャレンジを勧める。橋本さん自身も1万羽折ったけど、まだ続けると思います」と大台達成に満足していない。

(政治部・池谷選手)

①「鉗子」とは、何に用いるものですか。(内視鏡外科手術で(患部の切除や縫合のために)用いる。)

②橋本医師は「鉗子」を使って何羽の折り鶴を制作しましたか。(1万)羽

③「鉗子」を使って折り鶴を制作することは、どんなことに役立つと考えられますか。

内視鏡手術の技術が身に付く。
内視鏡手術のスピードや完成度の上達の度合いが分かる。
内視鏡技術で鉗子を自分の指先のように動かすことができるようになる。 など

④橋本医師は「鉗子」を使った折り鶴をまだ続けると言っています。その理由を考え、30字以内で書きましょう(句読点を含みます)。

まだ満足しておらず、もっと手術がうまくなりたいので。(26字)
内視鏡手術の技術向上にはゴールがあるわけではないので。(27字)
気軽に楽しく切磋琢磨しながら技術向上が可能だから。(25字) など

年 組 名前